

西尾一色ロータリークラブ月報

2023-24 年度
国際ロータリー
のテーマ



世界に希望を生み出そう

2023年 8月号 URL <http://www.katch.ne.jp/~ishikirc/> E-Mail ishikirc@katch.ne.jp

第2901回 例会 令和5年8月3日(木)

出席委員会委員長 池田 榮三
会員総数 21名
本日の出席者(免除者) 15名(2名)
本日の出席率 78.9%

会長方針

和気あいあい、
そして未来へ継承

2023~2024 年度
西尾一色RC 会長 鳥居萬里

例会場/一色町商工会館

事務局/一色町商工会内 Tel:0563-72-8276 Fax:0563-73-6633

【会報委員会】 藤井知明 久米健史

会長あいさつ

会長 鳥居萬里 君

今日は早朝例会です。朝早く起きると気持ちが良いですね。今日は例年のように蟬の鳴き声が聞こえませんでしたね。直前にわか雨が降ったせいなのか？

米山奨学生の李天月さんとその友達にも出席していただきました。日本の宗教について勉強していただければきっと思い出になるでしょう。

西脇住職には、昨年を引き続いてお釈迦様の教えについて学ばせていただきます。毎年住職にはお世話になっていますが来年もよろしくお願ひいたします。

「私も死ぬのか」と尋ねた王子に対して、付き人のカルダイは「必ず死にます」と答えます。西という方角はお日様が沈む方角であり一日の終わり、人生の終わりを示唆する方角です。季節でいえば秋を表します。秋は実りの季節です。西という方角は人生の終わりを表すだけでなく、人生の稔とは何かという問いを表しているのです。



お経の中には極楽浄土は西にあると説かれています。西に日が沈む頃には鳥もねぐらへ帰っていくように、人生の終わりに帰っていく世界が極楽浄土であることを表しています。春秋のお彼岸にはお墓参りをしたり、お寺参りをします。古くから日本人が大切にしてきた習慣です。お彼岸のお中日(春分の日と秋分の日)にはお日様が真西に沈んでいきます。真西に沈む夕日を観ながら今はお浄土にいる父や母を想って手を合わせてきたのです。

『夕焼小焼』という童謡があります。「♪夕焼小焼で日が暮れて山のお寺の鐘がなる お手々つないでみな帰る 鳥と一緒に帰りましょ♪」。実際に声に出して歌ってみると懐かしさがこみ上げてきて幼い日、子守唄を聞いたような穏やかな気持ちになります。実は「夕暮れにお寺の鐘がなりみんな一緒に帰る」という言葉の中に日本人の宗教的情緒が見事に表現されているのです。

私たちは仏さまの教えに従って、お浄土に帰る人生を歩ませていただきます。つらいことの多い人生ですが、帰る世界があり、「お帰り」と抱きしめてくれる世界があるなら、苦しくとも今を生きてゆくことができます。帰る世界のない人生は迷いの人生ですが、お浄土というさよりの世界を目指して生きる人生は、人生全体が仏さまに導かれて生きる仏道としての人生であり、実り豊かな人生ではないでしょうか。

今週のスマイル

親睦委員長 渡邊 徹 君

鳥居萬里君 早朝例会を喜ぶ。
早川比呂太君 よろしくお願ひします。
池田榮三君 久しぶりの早朝例会出席となりました。心新たに出発です。
田中三千雄君 おはようございます。
藤井知明君 早朝例会よろしくお願ひします。
久米健史君 早朝例会よろしくお願ひします。
神谷 林君/鈴木茂朗君/近藤清隆君/渡邊 徹君

10件 17,000円

本日の卓話

早朝例会

普元寺 6時00分～
西脇顕真 住職

お釈迦様の生涯⑦ 四苦八苦～死苦について～

今年もお釈迦さまの伝記である仏伝経典を手がかりにお話いたします。昨年は四門出遊のエピソードの中からカピラ城の王子だったお釈迦さまが南の門から出て病人に出会ったところまでお話ししましたが、その続きです。ある時、王子はお城の西の門から散歩に出かけました。そこで出会ったのはお葬式の行列でした。

お釈迦様はやがて悟りを開くと、西方十万億仏土を超えた彼方に極楽浄土があると説かれます。西方十万億とは極楽が人間の理知分別を超えた世界であることを表しています。(来年に続く)



尾崎カウンセラーが観光に連れていって
くれました♪

米山奨学生 李天月さんに
奨学金をお渡ししました。



8月のお祝い

- ★ 会員誕生祝
長田 治 君 鈴木泰光 君
- ★ 入会祝
太田幹浩 君 池田榮三 君
- ★ 創業記念祝
小出道治 君
- ★ 出席 100%家族協力賞
池田榮三 君